



なかね 大



一人のために、未来のために！
子どもの命と笑顔を守ります！

令和4年第4回定例会特集

本会議・代表質問から

2022年11月24日～12月2日まで開かれた令和4年第4回定例会での公明党議員団の一般・代表質問の要旨をご紹介します。



関係機関と連携した効果的な防災訓練の実施について

❗ 港区地域防災計画では、『防災関係機関は、港区の地域に災害が発生し、または発生するおそれのある場合に、港区の地域並びに区民等の生命・身体及び財産を災害から保護するため、防災関係機関が一体的な効果を発揮しうるよう必要な活動態勢を確立する』と定められており、発災した際の応急処置と復興に向けた活動においては、東京都をはじめ自衛隊や医療機関等の各機関と港区が連携を図り、展開することが何よりも必要になる。そのためにも、綿密な連携と、定期的な合同訓練が必要になると考えるが、区の見解を伺う。

▲ 2022年5月には、鉄道やガスなどの民間事業者と東京消防庁と港区・第一消防方面合同総合水防訓練を実施したほか、現在、警察や一般社団法人東京都港区警察歯科医師会との身元確認訓練の準備を進めております。こうした関係機関との訓練を実施することで、災害発生時に生じる様々な事象への対応力の向上につなげてまいります。



不登校児童・生徒の支援について

❗ 不登校の中には自室に閉じこもり、社会から完全に自身を隔離してしまう子どももいますが、すべての子どもが必ずしも家や部屋から出ないわけではなく、あくまで学校に登校しない長期欠席であり、友達と交流がある、習い事に通うなど学校以外の社会参加をしている子どもが多いということを確認することが大切です。

つまり、不登校になったとしてもひきこもりにならないよう社会参加への継続性を保つ支援の視点が必要になるのではないのでしょうか。今後はさらに不登校児童生徒数の増加が見込まれることからしても、更なる支援体制の強化が求められていくと思います。今後区として、不登校児童・生徒に対する支援についてどのように取り組まれるつもりか教育長に見解を伺います。

▲ 教育委員会では、コロナ禍における感染症への不安等を起因とする不登校児童・生徒の増加を喫緊の課題として捉え、個々に寄り添った相談や、オンラインを活用した学びを止めない取組を充実させてきました。今後は、全ての学校でスクールソーシャルワーカーによる不登校児童・生徒への家庭支援を拡大する検討を進め、児童・生徒に寄り添った支援を強化してまいります。



行政視察レポート

保健福祉常任委員会として福岡・熊本に視察

2022年11月10日～11日の2日間、福岡県福岡市・熊本市の医療法人聖粒会慈恵病院を訪問し、「福祉・保健・医療のネットワークの増進について」及び「児童相談所運営等の児童福祉の充実について」調査・研究してまいりました。



①児童虐待防止のための相談支援の充実
福岡市では、2022年度から児童一人一人に配布されたタブレット端末を活用し、いじめや親からの虐待などの相談をチャットや音声通話で相談できる仕組みを構築。港区の取組と比較し、支援の充実を模索することができました。

②若者の相談支援の充実

福岡市では、義務教育や18歳到達で支援が途切れがちな家庭の問題を解決するため、2022年度から若者総合相談センター及び若者支援協議会を設置し、民間の支援団体を含めた関係機関とのネットワークを構築し、適切な支援へとつなげており、今後、港区の取り組むべき施策の参考になりました。



③医療法人聖粒会慈恵病院

当病院では妊娠・出産・育児などの様々な悩みを抱えるご家庭の悩みごとの相談を受け、必要に応じたアドバイスやサービスを一緒に考える取組をしています。また、「赤ちゃんポスト」で知られる「このとりのゆりかご」に預けられた方が、18歳となった契機にこれまでの経験を語ったことが昨年大きな注目を集めました。当病院から熊本市の児童相談所に移された後、里親に預けられ、2021年養子縁組を結ばれました。

港区では、里親登録の拡大と支援の充実による家庭養育の推進に取り組んでいます。そのような中、様々な事情を抱える家庭の受け皿となる取組をしている当病院を視察し、調査・研究をし、知見を広められたことで、今後の委員会活動に生かしていけると感じました。



带状疱疹ワクチンの接種費用を一部助成！

新型コロナウイルス流行下で带状疱疹に罹る高齢者が増加。

港区議会公明党は、2022年3月の予算委員会などで、带状疱疹ワクチン接種費用の助成を訴え続け、2023年1月から、約7割の費用助成が開始されることになりました。

対象者：50歳以上の区民
助成額：生ワクチン 6,500円
不活化ワクチン 15,000円×2回



不妊治療の「保険適用外」治療に、最大45万円助成！

2022年4月から不妊治療に対する保険適用が拡充される中、港区は適用外となる「先進医療」への助成金を開始。同年4月1日に遡り、東京都の助成金と併せ最大45万円まで給付。

さらに、都の助成外の「自由診療」も対象とすることで、保険適用開始以前の、区の助成金の適用範囲までカバーされることに。

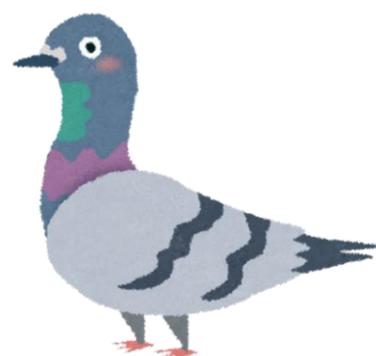
港区議会公明党は、2021年9月の決算特別委員会などで、保険適用以前の区の助成金の適用範囲まで包含した支援を訴え続けて、実現！



鳩などへの過剰な「えさやり」を禁止する条例改正！

港区議会公明党は、鳩への過剰な「えさやり」による、ふんなどで迷惑している地域の方々の声を受けて、2022年2月の定例会で、過剰な「えさやり」を禁止する条例制定の必要性を訴えてきました。

その結果、区は環境美化条例の改正を行い、鳩などへの「えさやり」により集まる動物の鳴き声やふんの被害、残ったえさの放置など、生活環境への悪影響を生じさせることを禁止事項としました。施行は2023年4月で、「えさやり」は、ふんの清掃やえさの片づけなども共に行うことを今後周知、注意喚起し、違反者には指導、勧告などを行って快適な生活環境を確保します。



二度目の「みな得レシートキャンペーン」が実現！

2021年2月、プレミアム付き区内共通商品券発行と時期を合わせて消費活動の促進を目指して実施されたみな得レシートキャンペーンですが、2022年3月の予算特別委員会で、コロナの影響が続くと予想されていることから、今後も商店街の消費喚起策として、みな得レシートキャンペーンを行い商店街の魅力が発揮できるチャンスが必要と訴えました。

その結果、2023年2月に発行する総額10億円のプレミアム付き区内共通商品券と時期を合わせ、2度目のみな得レシートキャンペーンが実施されることになりました！！



地域の声を実現しました！

白金台5丁目の私道整備！

配管工事後の道路舗装が継ぎ接ぎ状態で、雨が降ると水たまりが出来てしまい、通行しづらく、また衛生的にもよくないので舗装をしてもらいたいとの要望をいただきました。早速担当課に相談したところ、一面舗装を行っていただくことで問題を解消することが出来ました。

Before

After



ヤングケアラー支援が強化されます！

※ヤングケアラーとは、病気や障がいのある家族・親族の介護・面倒に忙殺されていて、本来受けるべき教育を受けられなかったり、同世代との人間関係を満足に構築出来なかった子どもたちのこと

区では現在、各関係機関と連携し、生育環境に課題のある家庭を訪問するなどしてヤングケアラーの支援につなげていますが、2022年度に区が実施したヤングケアラーの実態調査から、区が把握している数よりも多いことや福祉支援事業所との連携強化の必要性などの課題が浮き彫りになりました。

そこでこの度子ども家庭支援センターに「ヤングケアラー・コーディネーター」を新たに配置し、ヤングケアラーの早期把握と適切な支援につなげていきます。

資料1

関係機関や事業者の「ヤングケアラー」への意識を高め、潜在的ヤングケアラーを早期発見！
家庭の状況を把握し、速やかに適切な支援につないでいくことが必要！

令和5年度
から

そこで

ヤングケアラー・コーディネーター を配置して組織体制を強化！

相談窓口となる職員や支援者に助言・指導をするスーパーバイザーの役割を担う！

- 配置人数 2人(週4日勤務)
- 配置時期 令和5年4月1日から
- 要資格等 社会福祉士、精神保健福祉士または保健師の資格を有し、かつ虐待相談や生活保護ケースワーカーなど福祉相談経験3年以上
- 業務内容
 - 庁内関連部署からの相談を受けて助言
 - 区民への周知や、区職員や事業所職員など支援者向けの研修を実施
 - ヤングケアラー支援に関する関係機関とのケース検討会などの調整や、民間団体との具体的な支援などについて連携を図る

